

県立高校志望倍率

八戸工 建築コース 土木建築科 2倍

第2次調查

34校47学科定員割れ

青森県教育委は8日、今春は県内中学校などを卒業する生徒の進路志望状況調査、第2次調査（昨年12月17日現在）の結果を発表した。全日制高校の志望倍率は、県立が1・08倍で、前年同期より0・05倍減、私立が0・46倍で0・08倍増えた。第1次調査（同年11月18日現在）と比べて、県立が0・05倍下がった一方、私立は0・10倍上昇した。県立高の全日制で志望倍率が2倍を超えたのは、弘前工建築科（2・20倍）と、八戸工土木建築科・建築コース（2・00倍）の2校2学科だった。

三農生活科学科 1・51倍
どで、例年と同様に実業
学科の倍率が高かった。
普通科では、八戸西
1・51倍でトップ。この
か県南地方では、八戸1
24倍、八戸東1・17倍、
本木1・05倍など。
一方、定員割れした
は、青森北今別校舎普通

選拔方法影響か

県内でも私立高校数が多い
ため、県立高の志願・出願
倍率は例年、他地区に比べ
て高くなる傾向にある。県
内有数の進学校である同校
の志願倍率は2008年1
月公表の第2次調査で0.
97倍と1倍を切ったもの
の、ほとんど1・1~1

施する。教科によつて傾配点などを行ふ特色化選は一般選抜で定員外になつた場合、「より挑戦の度いが強くなるため、入りたいと感じて敬遠した（畠山学長）との見方をした。

県立全日制で志望倍率
高いのは、弘前工建築科
八戸工土木建築科・建築
学科のほか、弘前美家庭
学科の1・88倍、弘前工
学科1・86倍が続いた。
南地方では、八戸商商業

県立普通科0・10倍、中里普通科0・28倍、木造深浦校舎総合学科0・45倍など34校47学科。第1次調査と比べて6校2学科減った。
定時制では、北斗普通科39人(16人減)。就職希望者はいなかつた。

市内にある全日本制県立高普
通科で、志望者が2回の調
査でいずれも定員に満たな
かったのは過去10年間では
例がないという。志願倍率
が下がった背景には、高校
ごとに定める選抜方法など
が「5倍で推移してきた。
今回の現象について、
市の学習塾「志学塾」の
山篤学長は「新たな入試
度の選抜方法の違いに
る」と分析する。

2015年度青森県立高校別志望状況 (1月8日現在)									
学校名	学科名	募集人員	志望者数	志望倍率	生工科	環境生活	生産学	農業	35
八八 戸東	普通表計	通現	240	298	1.24	弘前工業	機電電情土建	械氣子術木築ア	46
八八 戸北	普通科学	通通	200	234	1.17		インテリ	技	31
三五 戸子	普通生物学	通通	30	31	1.03		計	木築ア	30
田名久井農業	生物園芸	通産	230	265	1.15	弘前実業	農商情報	營業理學	32
八戸水産	生産工科	通通	240	194	1.24		報	學	35
	環境システム	通	160	242	1.51		家	生	32
	計	計	40	51	1.28		服飾	業	35
			200	293	1.47		スポート	經	134
			70	65	0.93		科学	計	54
			70	49	0.70		デザイン	木築ア	35
			40	18	0.45		スポート	營業	35
			35	39	1.11		科学	理學	35
			35	28	0.80		インテリ	學	32
			35	38	1.09		計	生	35
			105	105	1.00		計	業	35
			35	42	1.20		計	經	35
			35	37	1.06		計	木築ア	35
			35	42	1.20		計	營業	35
			35	41	1.17		計	理學	35
			140	162	1.16		計	學	35
八戸工業	機電電子機械	通	35	31	0.89		通數	通合	35
	電子機械	通	35	33	0.94		通合	通	35
	電子機械	通	35	37	1.06		通	通	35
	電子機械	通	35	44	1.26		通	產	35
	電子機械	通	35	37	1.06		通	學	35
	土木建築	通	20	31	1.55		產	木學	35
	建築	通	15	30	2.00		學	生	35
	材料技術	通	35	42	1.20		木學	業	35
	技術	通	245	285	1.16		生	經	35
八戸商業	商業国際情報	通	80	126	1.58		普	理	200
	情報処理	通	40	49	1.23		通	普	218
	計	通	40	56	1.40		通	通	42
			160	231	1.44		通	通	134
			240	252	1.05		通	產	160
			35	36	1.03		通	學	35
			35	24	0.69		產	木學	35
			70	60	0.86		學	生	35
			200	201	1.01		木學	業	35
			40	30	0.75		生	經	35
			240	231	0.96		業	學	35
			120	102	0.85		經	學	35
			160	114	0.71		學	生	35
			70	65	0.98		學	業	35
			120	92	0.77		業	經	35
			40	39	0.98		經	學	35
六ヶ所農業	普通植物	通	160	131	0.82		通	通	35
三本木農業	普通機械	通	70	58	0.83		通	通	35
	動農業	通	35	35	1.09		通	通	35
	環境農業	通	35	39	1.11		通	通	35
	農業	通	35	43	1.23		通	通	35
	生活	通	35	53	1.51		通	通	35
十和田工業	機械工科	通	210	247	1.18		通	通	35
	電子機械	通	35	40	1.14		通	通	35
	電子機械	通	35	40	1.14		通	通	35
	電線電建	通	35	35	1.00		通	通	35
	電建	通	35	35	1.00		通	通	35
	計	通	175	180	1.03		通	通	35
三沢商業	商業情報	通	120	160	1.21		通	通	35
田名部	英語	通	40	29	0.73		通	通	35
	計	通	200	180	0.90		通	通	35
			40	29	0.73		通	通	35
			200	211	1.06		通	通	35
			40	34	0.85		通	通	35
			80	72	0.90		通	通	35
			35	31	0.89		通	通	35
			35	42	1.20		通	通	35
			35	39	1.11		通	通	35
			35	28	0.80		通	通	35
			35	34	0.97		通	通	35
			175	174	0.99		通	通	35
			280	378	1.35		通	通	35
			240	243	1.01		通	通	35
			280	298	1.06		通	通	35
			40	21	0.53		通	通	35
			200	181	0.91		通	通	35
			40	36	0.90		通	通	35
			240	217	0.90		通	通	35
今別校舎	普通国語	通	40	4	0.10		通	通	35
青森森西	普通外國語	通	200	288	1.44		通	通	35
平内校舎	普通外國語	通	40	33	0.83		通	通	35
青森森東	普通外國語	通	240	321	1.34		通	通	35
	スポーツ科学	通	200	244	1.22		通	通	35
	計	通	40	51	1.46		通	通	35
			35	35	1.00		通	通	35
			35	34	0.97		通	通	35
			35	31	0.89		通	通	35
			35	43	1.23		通	通	35
			35	41	1.17		通	通	35
			35	32	0.91		通	通	35
			245	267	1.09		通	通	35
			200	266	1.11		通	通	35
			40	322	1.34		通	通	35
			40	332	1.38		通	通	35
			240	257	1.07		通	通	35
			120	119	0.99		通	通	35
			40	48	1.20		通	通	35
			160	167	1.04		通	通	35
弘前中	普通国語	通	240	322	1.34		通	通	35
弘前前	普通国語	通	240	332	1.38		通	通	35
弘前前	普通国語	通	240	257	1.07		通	通	35
弘前前	普通国語	通	120	119	0.99		通	通	35
			40	48	1.20		通	通	35
			160	167	1.04		通	通	35

県内でも私立高校数が多いため、県立高の志願・出願倍率は例年、他地区に比べて高くなる傾向にある。昌内有数の進学校である同校の志願倍率は2008年1月公表の第2次調査で97倍と1倍を切ったもの、ほとんど1・1~1

施する。教科によつて傾配点などを行ふ特色化選は一般選抜で定員外になつた場合、「より挑戦の度いが強くなるため、入りたいと感じて敬遠した（畠山学長）との見方をした。

2015年1月9日掲載 デーリー東北新聞

主学塾 柏山第 勲長が取材を受ける。章昌が掲載されまし

市内にある全曰制県立高普
通科で、志望者が2回の調
査でいずれも定員に満たな
かったのは過去10年間では
例がないという。志願倍率
が下がった背景には、高校
ごとに定める選抜方法など
が影響しているようだ。

同市を含む三八地区は、
県内でも私立高校数が多い
ため、県立高の志願・出願
倍率は例年、他地区に比べ
て高くなる傾向にある。県
内有数の進学校である同校
の志願倍率は2008年1
月公表の第2次調査で0.
97倍と1倍を切ったもの
の、ほとんど1・1~1・

5倍で推移してきた。今回の現象について、市の学習塾「志学塾」の山篤学長は「新たな入試度の選抜方法の違いによる」と分析する。八戸高や八戸東高は、色化、一般の順で選抜すが、八戸北高はその逆で施する。教科によって傾配点などを行う特色化選は一般選抜で定員外になた場合、「より挑戦の度いが強くなるため、入りないと感じて敬遠した（畠山学長）との見方をした。